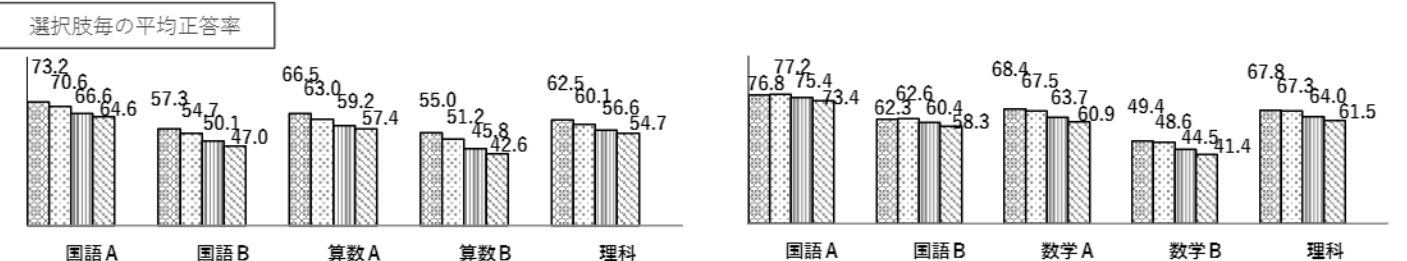
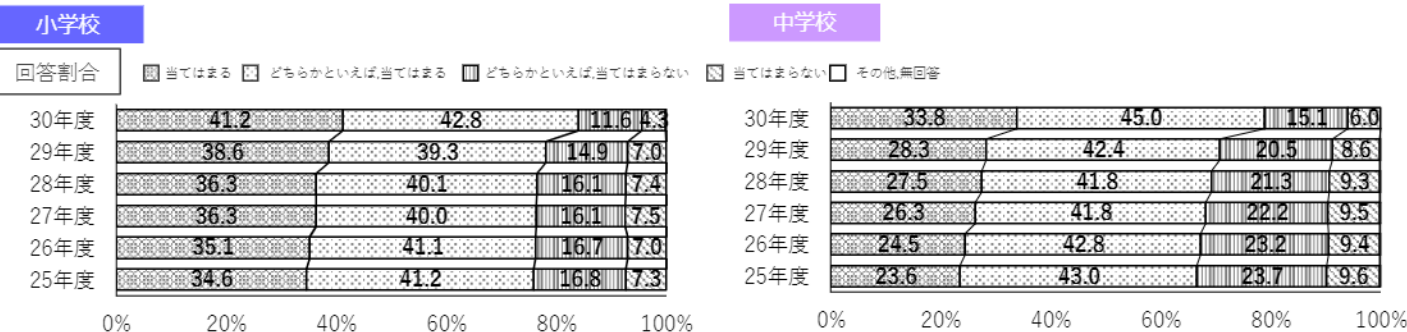


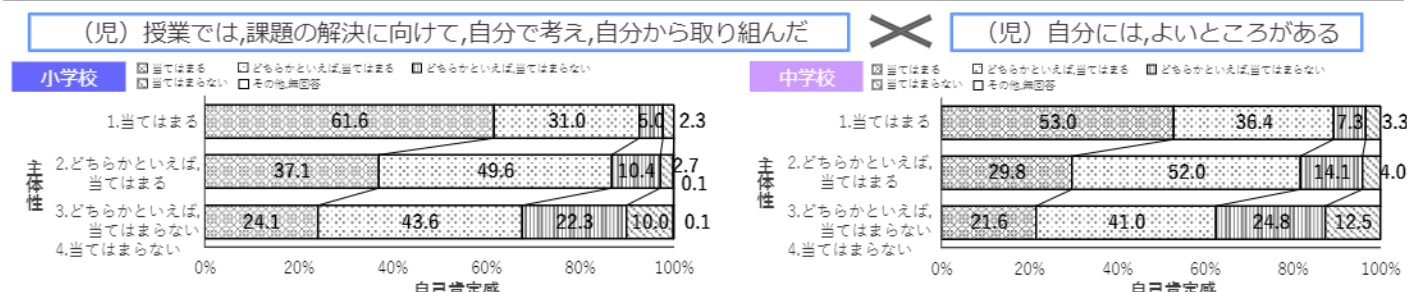
5. 児童生徒の自己肯定感等に関する状況

- 「自分には、よいところがあると思いますか」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、平成25年度以降、増加傾向が見られ、平成30年度は約8割となった。また、この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られた（ただし、中学校国語においては「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の平均正答率が最も高かった）。
- 課題解決に向けた主体性、他者との協働に関して肯定的な児童生徒、先生に認められていると感じている児童生徒の方が、自己肯定感が高い傾向が見られた。

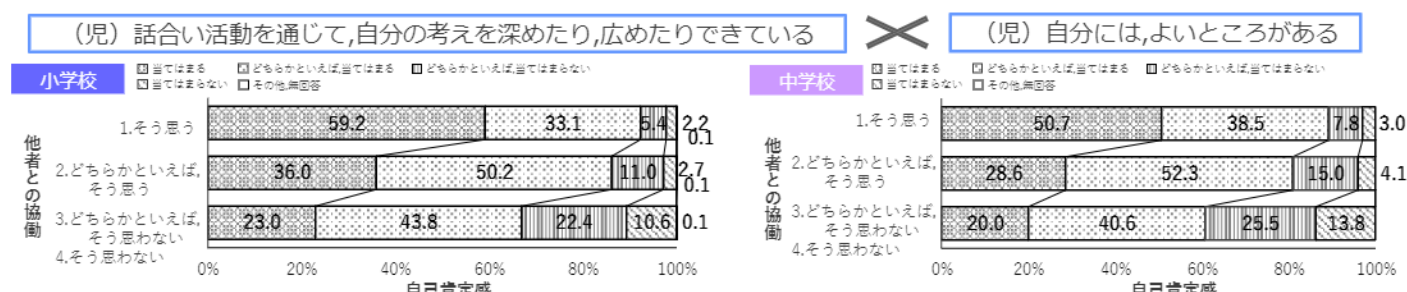
【児童生徒質問紙】自分には、よいところがあると思いますか。



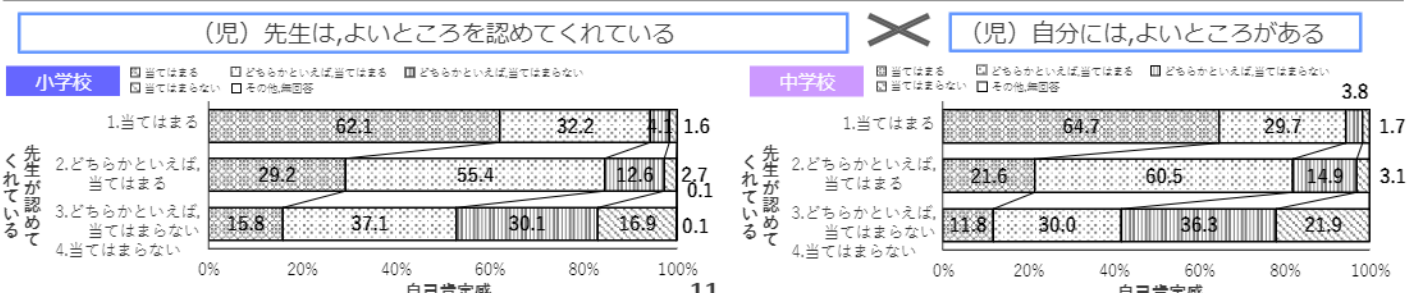
① [課題解決に向けた主体性] と [自己肯定感] の関係



② [他者との協働] と [自己肯定感] の関係



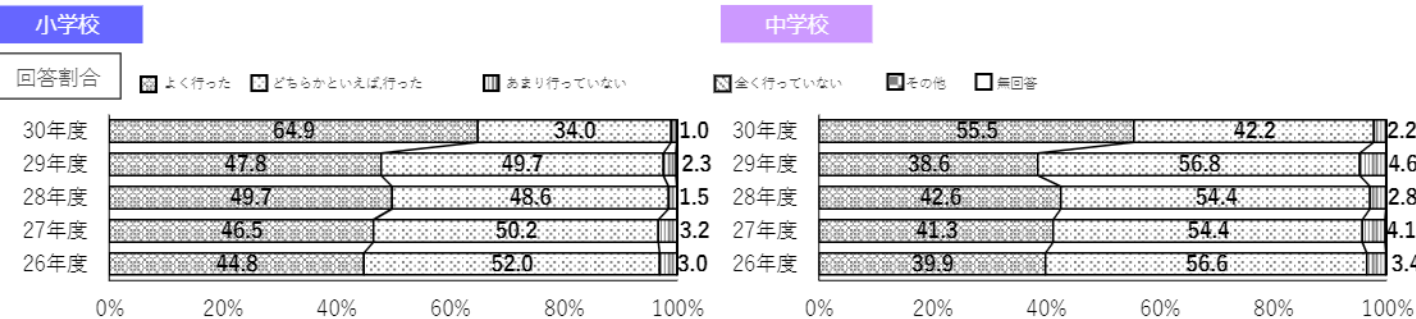
③ [先生が認めてくれている] と [自己肯定感] の関係



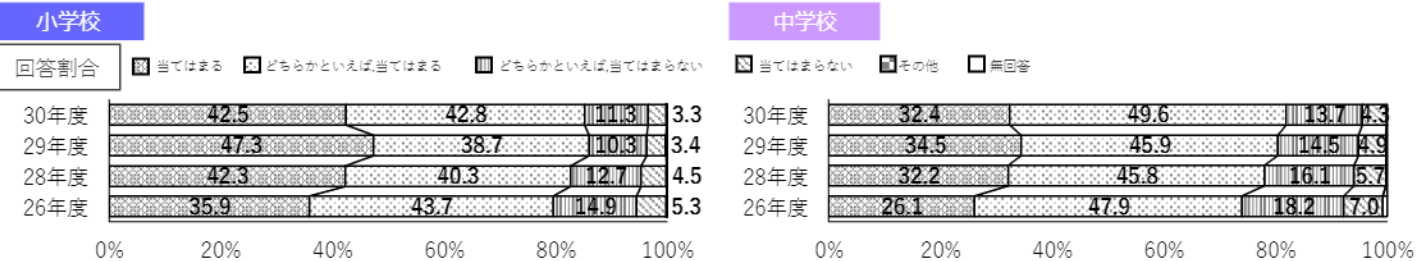
5. 児童生徒の自己肯定感等に関する状況

- 「学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか」との質問に、肯定的に回答した小中学校の割合は、平成26年度以降、大きな変化は見られないが、平成30年度は増加しており、9割を超えている。特に、平成30年度は、平成29年度に比べて、「よく行った」と回答した学校の割合が増加している。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、平成26年度以降、増加傾向が見られた。（ただし、平成30年度は、平成29年度に比べて、「当てはまる」と回答した割合が減少している。）
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、平成25年度以降、9割を超えて推移しており、特に、平成30年度は、平成29年度に比べて、「そう思う」と回答した児童生徒の割合が増加している。

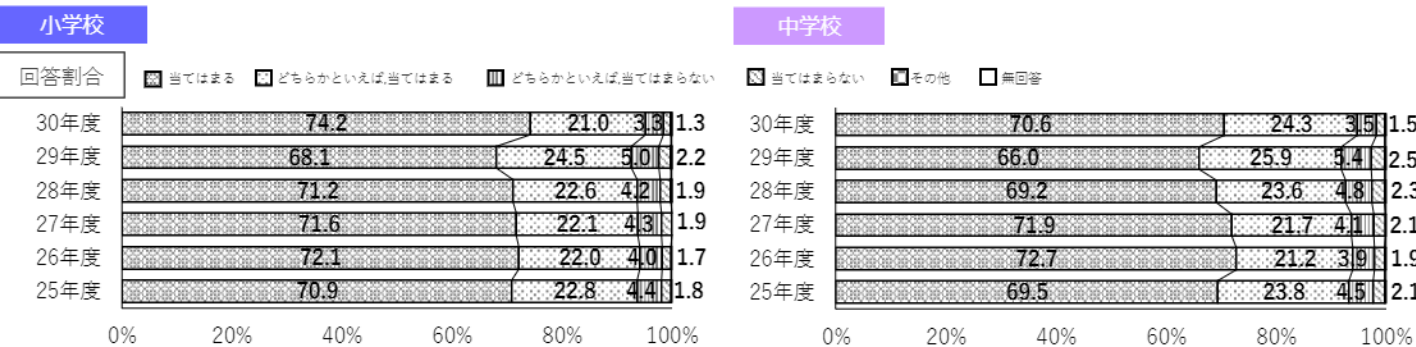
【学校質問紙】 調査対象の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか。



【児童生徒質問紙】 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



【児童生徒質問紙】 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



【児童生徒質問紙】 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

